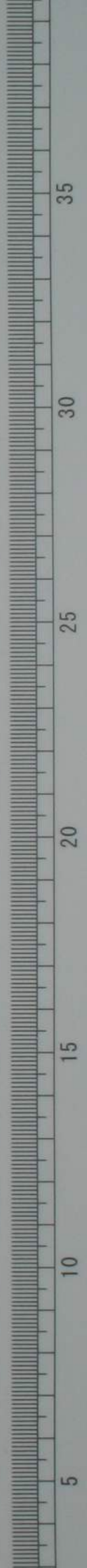


鳴羽換

特別  
子4  
5799  
1





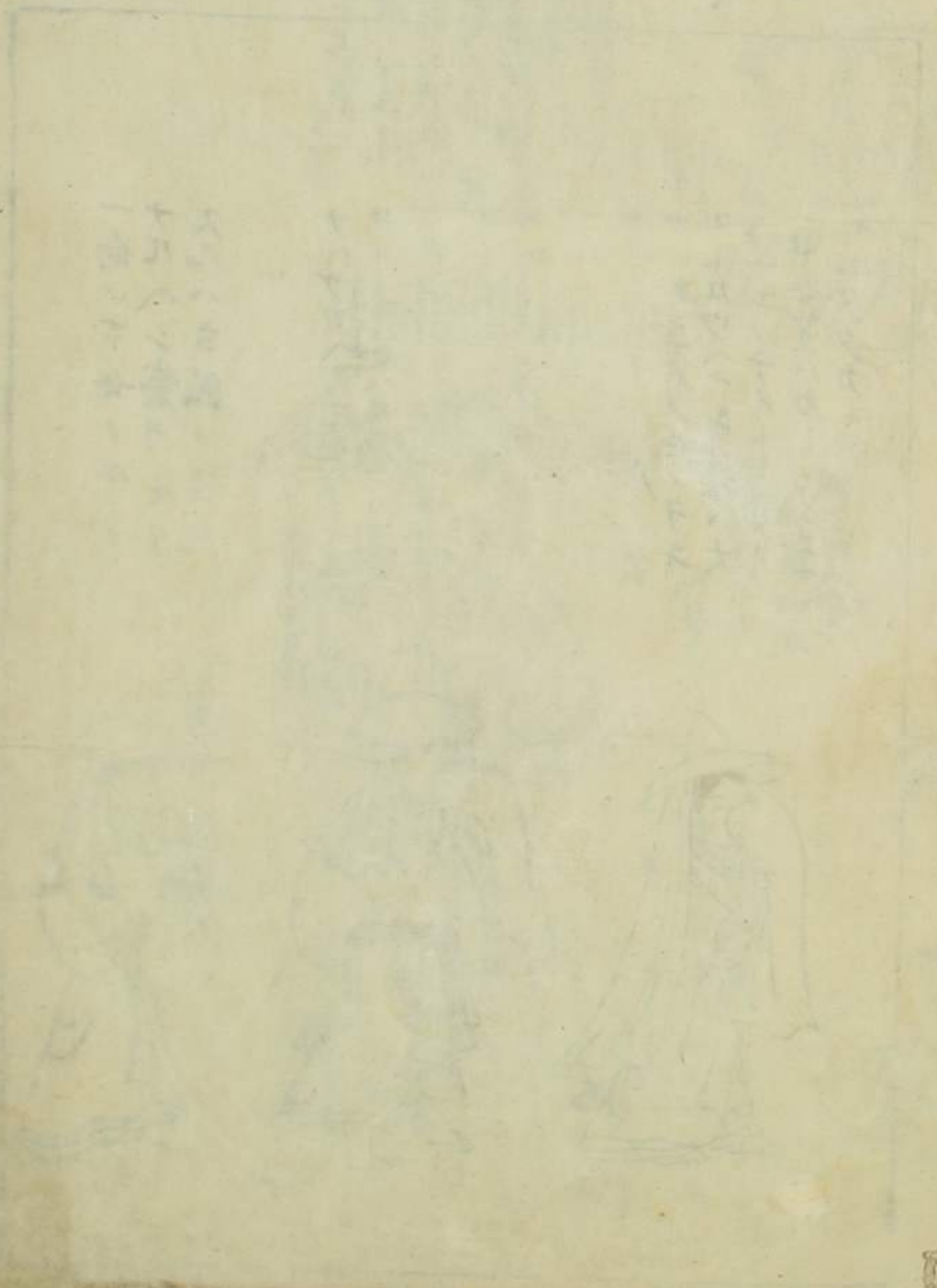








Handwritten text in the upper left corner of the left page, consisting of several lines of characters.





秋齋問語  
所載古祿  
二年古画

享祿二年を今  
文化十年より  
寛永二百八十五  
年此書が當時  
の女性風体は  
大方此書密画  
よりせんも其  
相不似と

こゝ片假名を  
用ふるは  
秋斎問語の  
ことと奉  
たり

一向ノ下女ノテイ  
ナルヘシ袋ヲモタ  
スルハ古風ノ一

ソハツカヘス凡女トミヘ  
タリ下女ハカミヲサゲス  
ソハツカヘテイハカミヲ  
サリルトイヘトモカ  
ツラハカケタリ

主人ノテイ今  
カツキテイノモノヲキ  
タルカウヘニキタルハ大  
ウキノテイトミヘタリ  
市女笠ハカミノソコ  
サルタメカ



京山模寫

○寛永時代古画  
此書と載り



○古の傳書と此繪卷は  
市女笠を記述せしむる  
と、廣くを記述せしむる  
みづから記述せしむる  
と、記述せしむる  
も、ゆゑに、此書と載り  
と、

○調花堂藏本  
天和四年印本  
菱川の繪  
此書あり



市女笠

○杏花園藏本  
寛文二年印本  
要石  
所載



○これ等古画と参考する  
寛永寛文天和此比  
り、此書と載り  
その、此書と載り  
此書と載り、此書と載り  
老女、此書と載り  
此書と載り、此書と載り  
此書と載り、此書と載り  
此書と載り、此書と載り







撥の形  
 今より数寸  
 黒の後より  
 ひくると  
 古制は撥は元用は  
 おとたりゆゑに婦人  
 持枝はかりしと頭をさるり  
 とよ説くは毛はるべ



寛永此比の古画のつらと  
 撮要々模せや

○寛永正保此  
 此れ古画なり  
 鼓弓此右制衣  
 とらんべ  
 洞丸く  
 弓短小ふれ  
 今と大ふ  
 異之  
 和漢三才図會ニ  
 鼓弓始於南蠻  
 とらんべたり  
 此高の古制は壹絃近



○相續とる鑼とらんべはこれなり  
 異之盲人ハ撥ふふとらんべ此鑼ニ  
 じきびつて用いこふ  
 昔此質朴と  
 ねりやべ

寛永正保此比の古画なり三線の  
 古製とらんべ

美少年の男子の体



海老尾の形琵琶小  
 似たり今と大異之

万治の比も  
 くのむと形



万治年間印本  
 東海道名所記  
 野載







古代竹馬圖

此書ハス録十三丁の印存  
田舎六師傳のうらうり  
筆出せりこれハ正和年中の  
古風を摹して刻したる  
ものなり因らるるもの  
正和年中ハ今文化十年より  
前ハ是等の茶年の  
と不化者ありふれと

五百年の昔の情

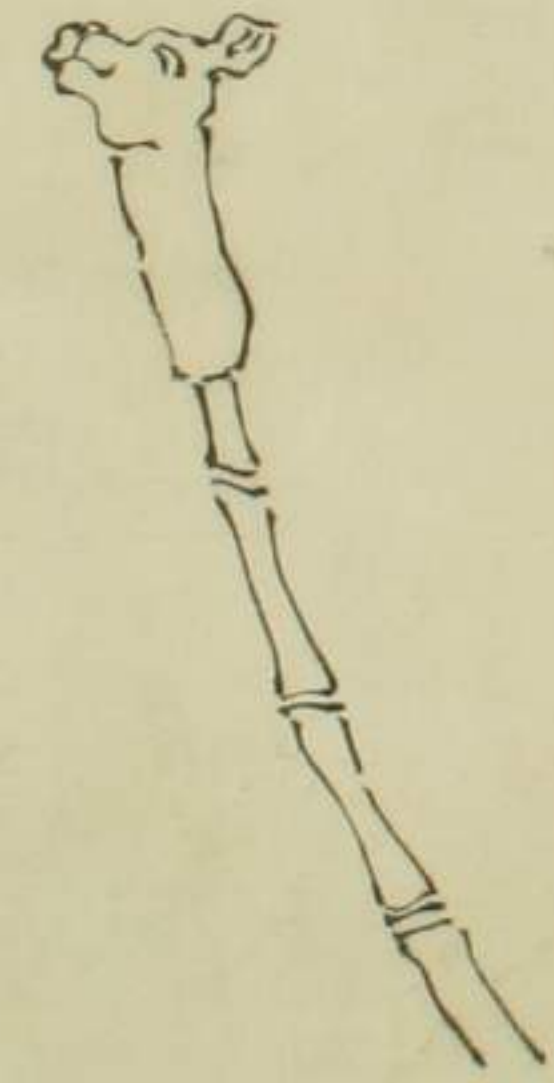
「狂畫苑」安永四  
年印本 小百鬼夜行の古画を  
編 ぬきせり其うち此書あり戲画  
多れども當時の竹馬の姿をみる使は  
れ「好古小録」本朝畫史を参考す  
百鬼夜行ハ明徳の比の古画あり明徳ハ  
今文化十年より前ハ四百餘年  
昔より約の頭の杖は竹馬  
ありあはれ物なり



五百年の昔の情  
今と  
くらぶと

百鬼夜行にまてて戲画の怪物  
なれ竹馬ふまをり記た  
るといはれり  
唯そのちかむ  
人の

唐山の古銅器小童兒竹馬を持たる形を  
鑄たるあり銅色宋時代の物といふ鑒定  
あるもの臨存を傳へ竹馬の  
こみうり  
宣和年間物と  
さむらと記  
本朝  
鳥羽院の保女の  
ゆきあきまの保女  
らり今文化十年  
いりておもてたる  
ゆきあきまの保女  
見立威ふして旭車  
繪あり七歳  
竹馬の轂ありと旭車  
對してこれハ唐山の此器の如し竹馬の  
轂をこきまの保女  
日女様とん動の頭よつて唐様とん  
ゆきあきまの保女あり



五百年の昔の情







桔梗笠古圖



貞享の比の繪此昔りり  
大神樂打の  
体之

天和貞享の比此幼槍の繪卷の  
うち此荷を載り笠へ青黄赤  
一間おふんいりどけり



大神樂打の  
少年の体之

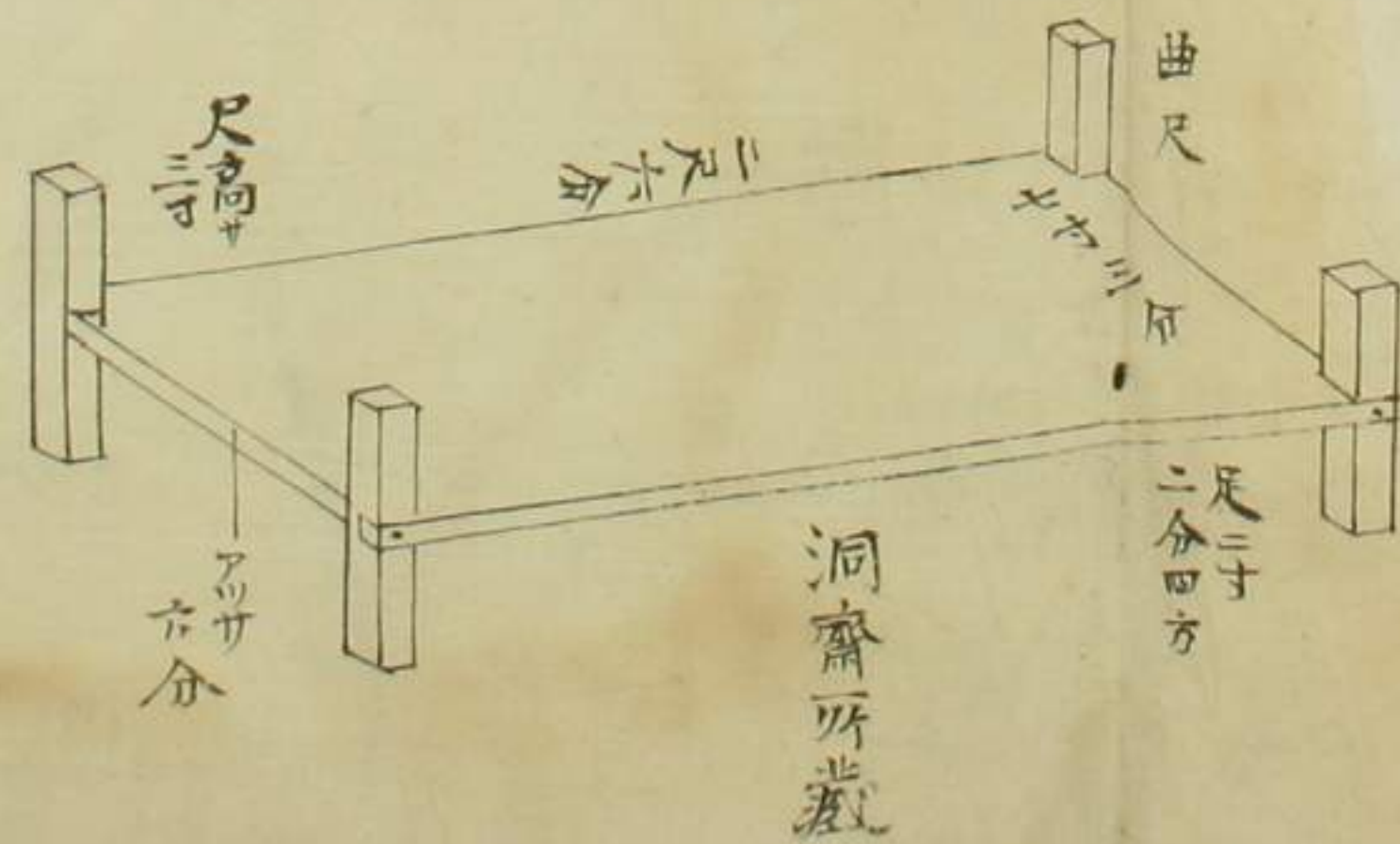


元禄の比此  
繪此昔  
あり

此二人  
美少年の  
男子の体之

奥板の古製

大明時代の酒食論より小画巻又寛永  
時代此繪に此奥板見えたり此正此  
奥板の形も今も京都の橋本  
古制より今も京都の橋本  
奥板の形も今も京都の橋本  
奥板の形も今も京都の橋本  
奥板の形も今も京都の橋本



万治四年印本  
むすあふじ  
載り音



宝永五年印本  
諸士百家記  
此音あり  
當時の比  
如き此燈  
用









此繪筆者、詳あらず、  
 只とも画風を以て時代を  
 考ると實永正保の頃の  
 古画とありん、其時代の  
 繪、合せ、さうなれば、  
 ちよび、な、と、  
 おもひ

蝙蝠羽織圖



春花園藏

慶安二年の印本、之に及紙上之巻、小み、物、の、画、と  
 して、多、く、小、袖、の、さ、ら、ん、か、り、を、あ、り、ま、し、と、あ、れ、ば、  
 蝙蝠羽織といふとあり、此繪の相、あ、り、の、と、く、は、  
 當時の蝙蝠羽織、あ、り、ま、し、と、あ、れ、ば、  
 實永正保の繪と決むれば、今文化十年より  
 ちよび、な、と、前、の、ひ、と、あ、り、ま、し、

袴の文様、田字、草、  
 本、草、網、目、の、競、竹、  
 ちよび、な、と、あ、り、ま、し、

貞享五年板

日本歳時記

卷之四、此、景、あり

右の書、さ、ら、な、り、ま、し、

人形を

あつと、紙、  
 あり、ぬ、れ、ん、  
 産、相、の、さ、ら、な、り、ま、し、  
 の、さ、ら、な、り、ま、し、



曹人形圖  
 一種



人形舟

此番、延宝天和の  
 時代の繪の、さ、ら、な、り、ま、し、  
 あり、草、画、の、さ、ら、な、り、ま、し、  
 微、細、の、さ、ら、な、り、ま、し、  
 考、證、の、さ、ら、な、り、ま、し、  
 横、の、さ、ら、な、り、ま、し、



三結を永保五年中琉球國より渡る元控は成用の奉新お猫の草を換用の泉元  
 堺の盲人中中政一傳り其後虎沢と云盲人奉子鶴子とひきぬむ事、漆笑り  
 ゆるんいひひん

。物子の正は方と海老尾とよまひの尾にゆるんいひひん  
 〇三流の教書事して海老尾松色ろる首のどく今はお猫の三流と目  
 下は國をうゑん寛永十一年の事又兼寛四年四奈河奈々乃國紙園  
 何々如の経島中も如のどく三流あり按おれ其後皆お猫の針糸少く有る  
 〇お猫お出は清水寺寛永十一年末お猫の國中細画中して今曉をたれんと  
 をまに抄物してしそくきつ紙麻子



わがやふ  
 此圖を考たいいふへい  
 〇松を傳よんまうて  
 松といふものふくある時  
 松よてもかさ又揚松を  
 松よんり等と道大鑑云  
 西暦八十代が揚松がさ  
 小松が下細のひきさ  
 〇こよりまうむく松を  
 琵琶を弾よんりて今  
 世のふと一傳りお猫の  
 やを伝らさういひひん







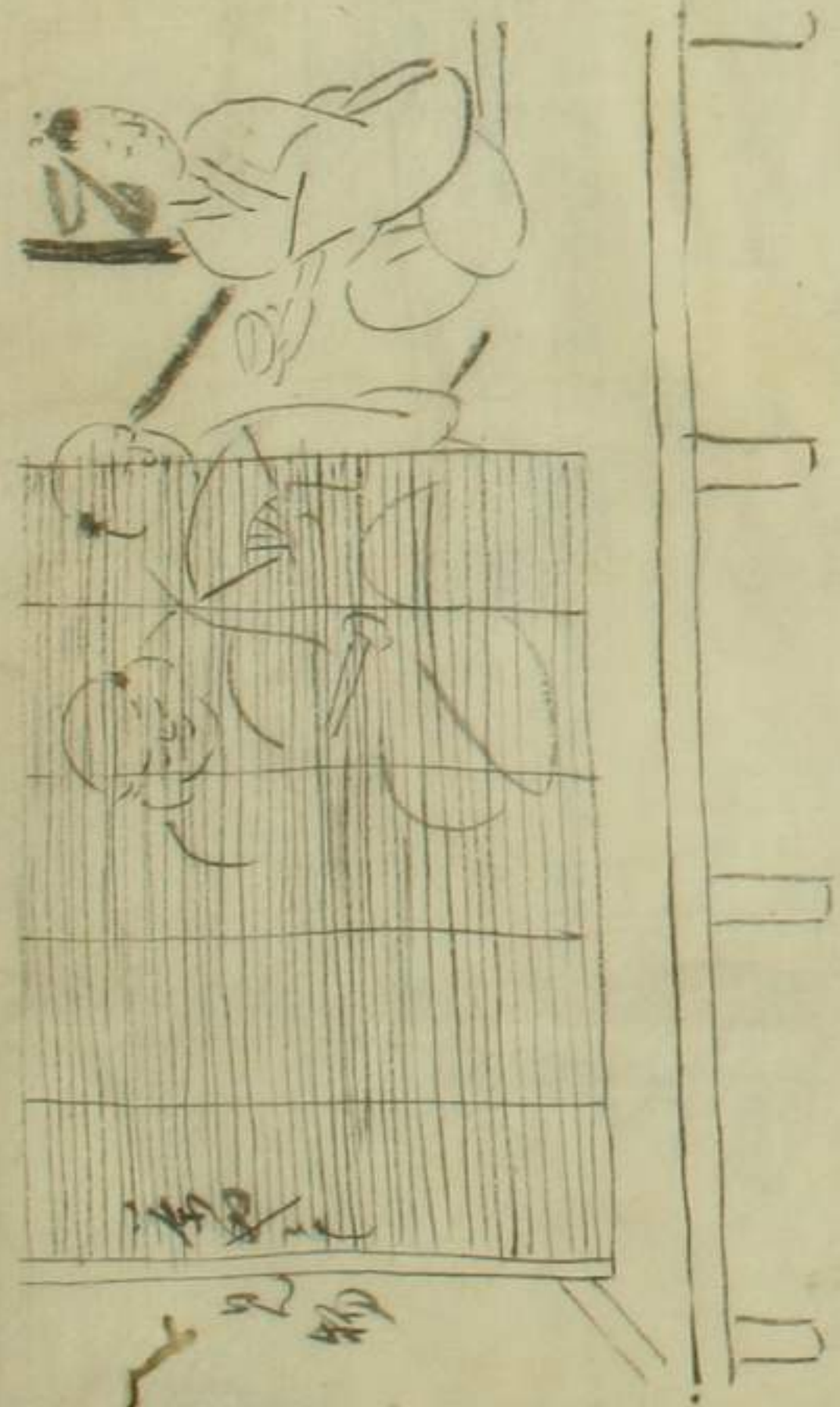


道元  
見物



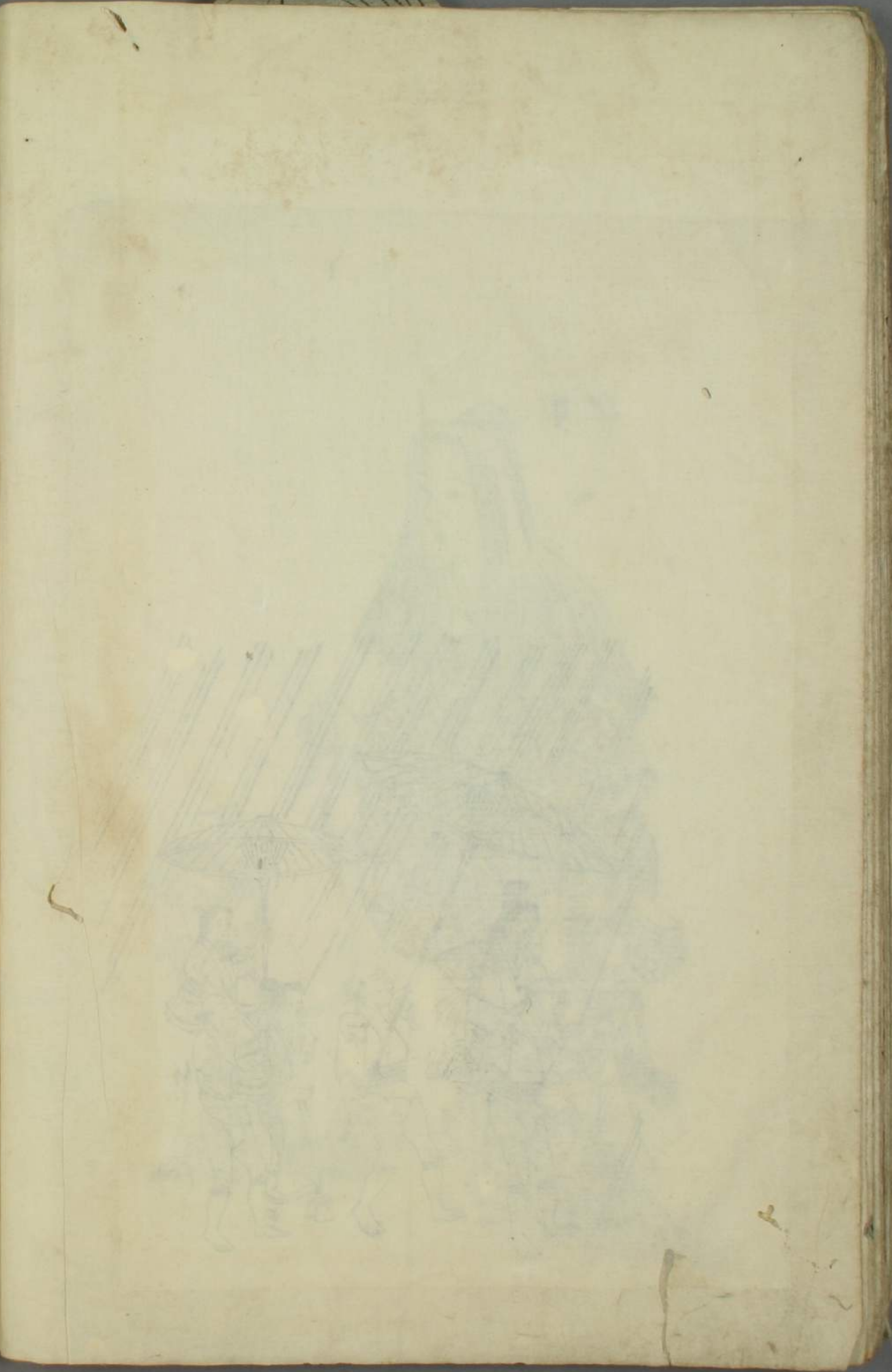
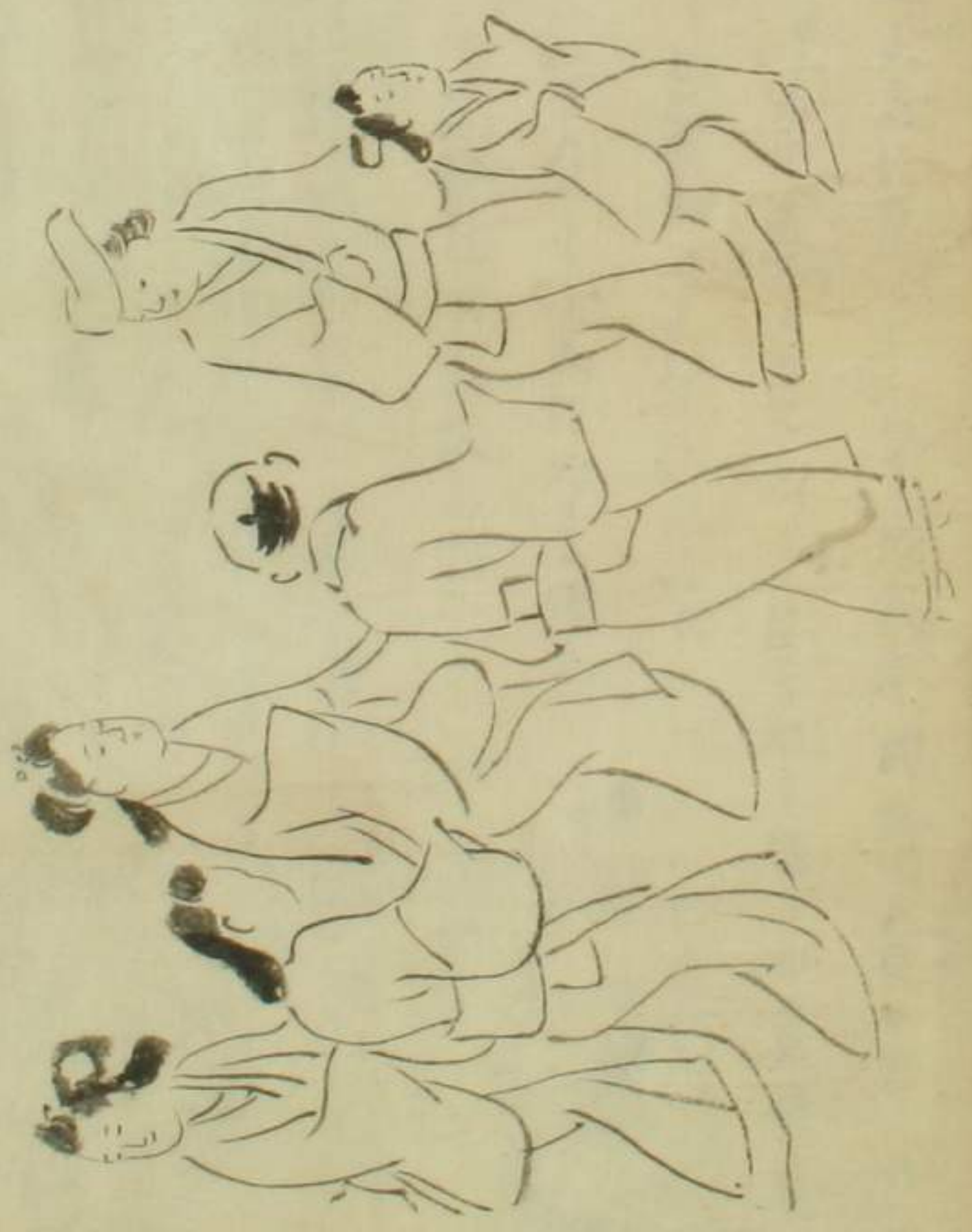
菱川師宣  
かきつゆの春書

中女見物



名如之

見物





此の頃の法をいふと相國寺の如妙  
 といふ僧の思を化よりその序  
 詞云大友公併僧如妙画等振か  
 唐若小屏之間而命は湖群禮  
 名善一徳言其志より如妙ハ  
 画法を周文は信へ一人は夫太  
 公といふいふいふは公よりやひ  
 といふいふいふいふいふいふ  
 固いといふいふいふいふいふ  
 信といふいふいふいふいふ  
 ありといふいふいふいふいふ  
 もといふいふいふいふいふ

〇この頃の法をいふと相國寺の如妙  
 守武ふいふいふ  
 なるいふいふいふいふ  
 山といふいふいふいふ  
 このふいふ  
 天大九年の如



集いふいふいふいふいふ

ナフコエト  
 此之は... 吳名流... 建武年間記... 口述去年八月二條河原  
 落書 元年... 中... 美物... 板鳥帽子... 由... 免... 免... 免...

左京侍... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今...



〇今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今...



今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今...



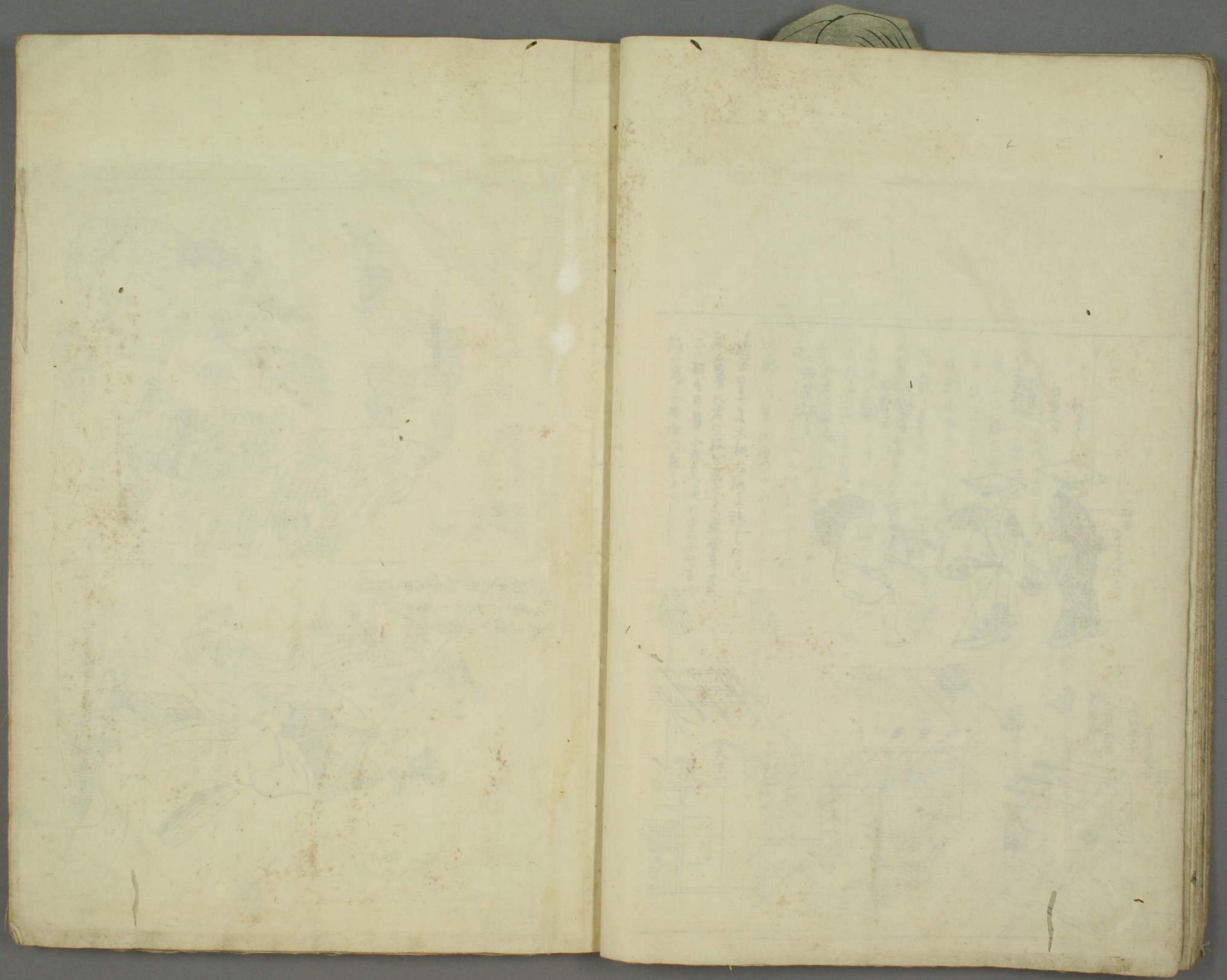
六万といふ始り夫より若虎奇舞妓并徳客酒と云舞妓六万と謂ふ  
自了舞の一よりなり奴舞妓の方杖振と云あり扁額と圓と云はる舞妓の振  
指は兼一首巾帽巾と纏ひ高麗華形のみ被衣は長衣を着高麗  
の被衣多く奴の被衣文箱を持つは奴振の侍傍よりけしきと記し奴を揺山と云り  
疑うは揺山と云は花と云え祿の頃此奇舞妓は白衣六万の徳客と云は  
ことと云は揺山馬と云ふことなり

○慶長の頃佐渡嶋於國舞妓は長世を為り世に在りて舞ハ湯敷山  
女人性生の条下云に也  
女舞は温かき事多しやと寛永年中奇舞妓を正ら且て高麗奇  
舞妓となりぬ男凡の流舞女は城せむを以て是れ舞妓の舞を  
利せ頂の上より舞をせぬ紙捲をもりて舞を舞師と云













此圖あり  
同書三の巻

元禄四年荏言本  
四季御所三の巻  
此圖あり  
はせり  
はせり  
はせり



元禄十三年荏言本  
此圖あり  
辰之助が自像あり







蕉翁肖像  
 眼細ク上ニサシ及リ上リノ眉細ク長シ  
 法令正ニシ耳トクニ身ノ自髯竹節通リ大ニ鼻ノ  
 下ノ短ク顔色櫻色ニテ長ニヨリカイ長ク細西ナリ  
 武門ヨリ出テ佛法大悟禪味ノ人ナリ威者テ不極  
 此肖像ハ門人知定カ写図又許六及杉風ヲ画モ皆如此  
 知定カ肖像ハ今杉風跡杉露家ナリトス

蕉翁二見形文臺圖及寸

哀書  
 子ニアリ

木枝櫪  
 鏡板 縦壹尺七寸五分  
 横壹尺五分

厚子ナニ分  
 高ナ足通テニ寸五厘  
 餘盤二分

筆返ニ紫竹ニツ割直四分  
 鉄ノ鉄ヲ以テ三所打  
 竹節上下中ニツリ

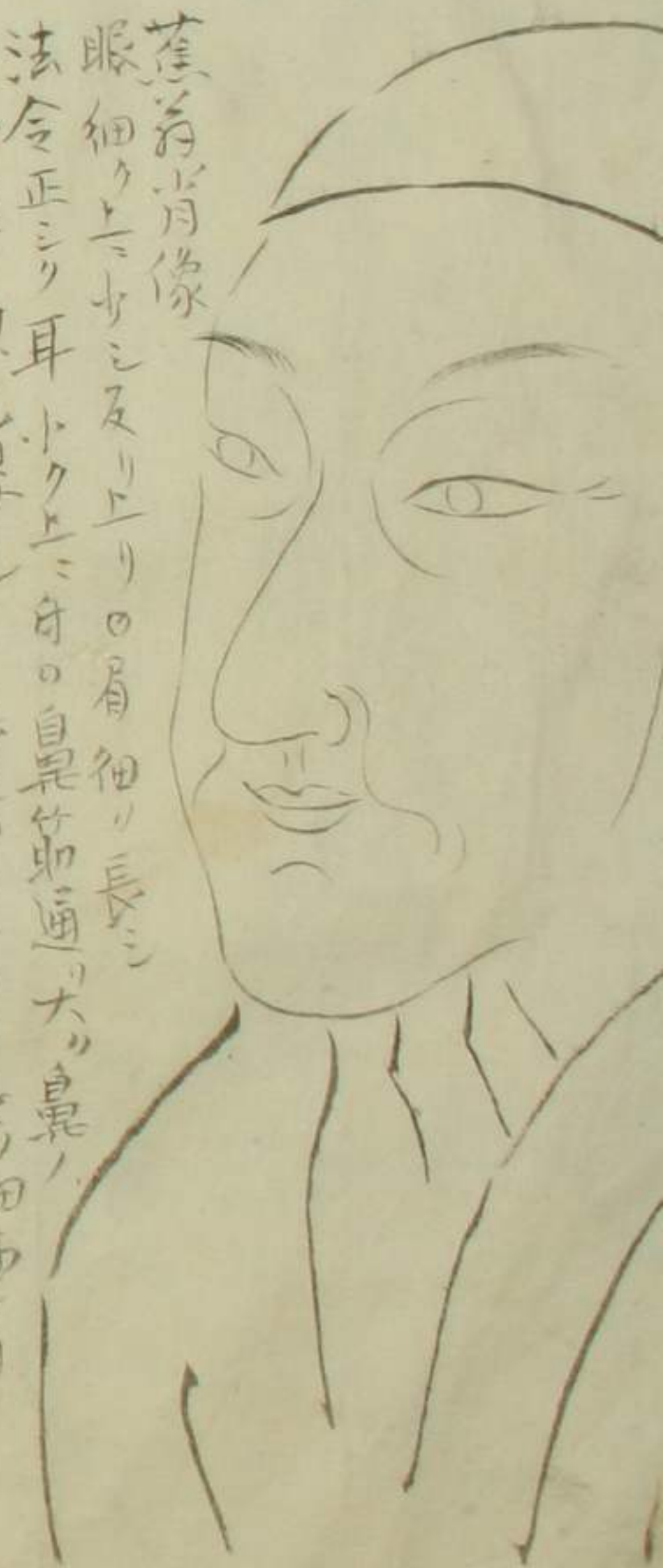


うゝあふ  
 うゝあふの  
 花も  
 浦のまゝ

元兼ニ中春芭蕉



蕉翁の肖像  
 眼細く鼻サシ及リ上りの眉細く長し  
 法令正しく耳小く鼻の鼻筋通り大鼻  
 下中短く顔色櫻色にて長き口の長細く細西ナリ  
 武門ヨリ出テ佛法大悟禪味人ナシ蔵百テ不極  
 此肖像ハ門人知定カ字團又許六及杉風ヨリ画モ皆如此  
 知足カ肖像ハ今杉風跡杉露露字ホトス

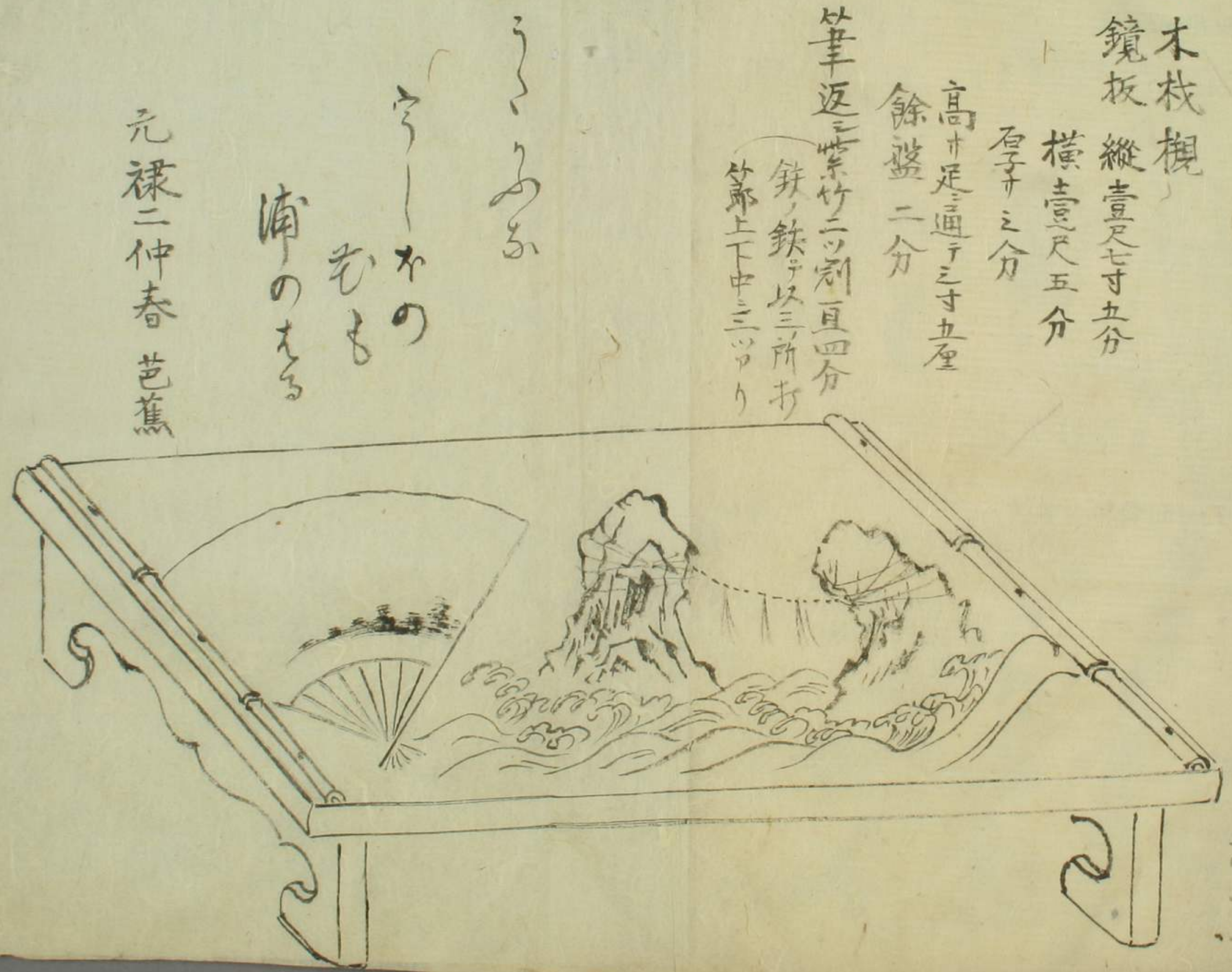


蕉翁二見形文臺の圖及寸

木枝櫪  
 鏡板 縦壹尺七寸五分  
 横壹尺五分

厚寸二分  
 高寸足通テ三寸九厘  
 餘盤二分

筆返ニ紫竹ニ割直四分  
 鉄ノ鉄テ以テ所打  
 竹節上下中ニツツリ



哀書  
 子ニアリ

うゝあふ  
 うゝあふの  
 花も  
 浦のもる

元禄二仲春芭蕉

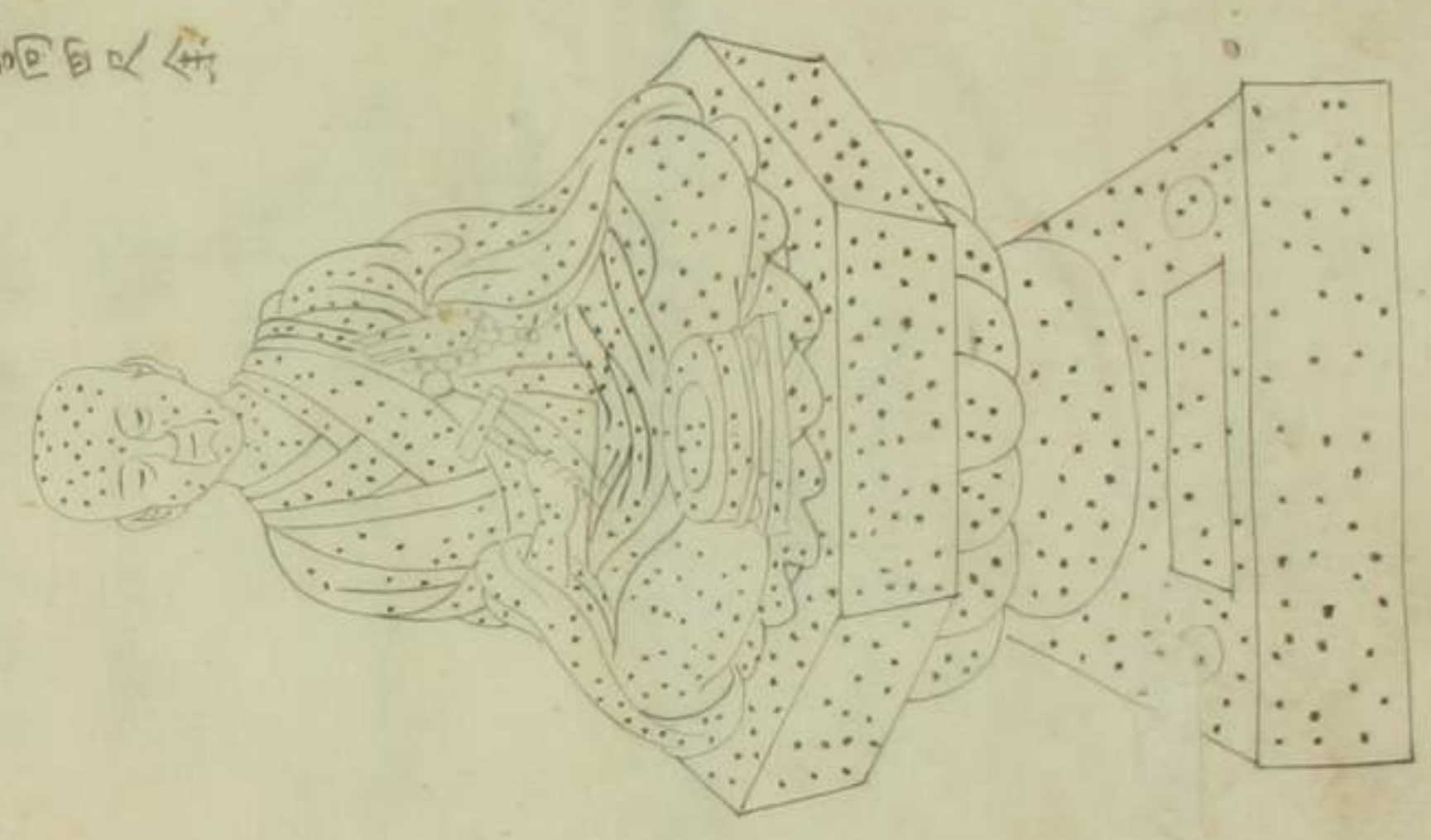




退  
雛  
圖  
紀  
文

道哲墓之圖

惣高四尺余



高尾所持羽子板

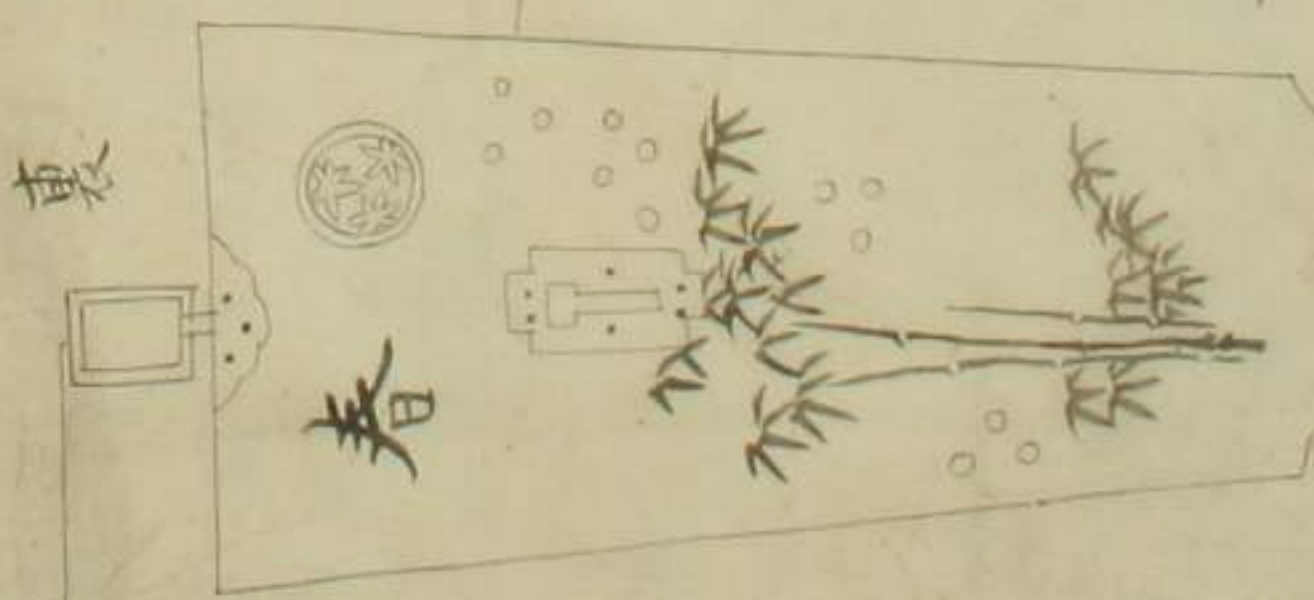
七寸五分

表



四寸三分

四寸



春

表裏ともに惣金模様  
墨蒔繪紋木口丸角丸口之

万治中の高尾の教  
に此羽子板の字ありと  
いふ事あり

此金具ははつり空探り



誦

利休形塗茶杓

瓦山溪齋

斗来所持の要依の個  
難照と進送の字





一手道拵巻圖

延享六年板  
美濃川繪本  
昌才撰入

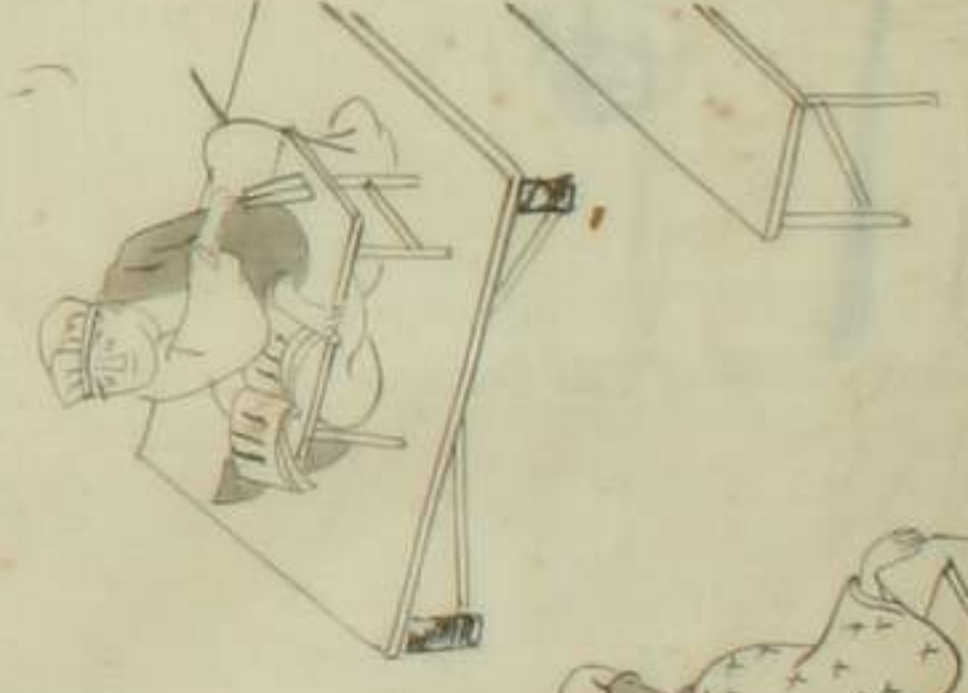
懸想文賣圖

寛文十二年印本  
曾呂里狂哥咄  
古巻撰出

元禄六年板本  
誹諧系層に  
公五文賣の  
よき名を狂哥咄  
説き分るは  
みよしつ

享保十三年印本 檉雨の梅玉此画あり

心  
州  
也  
乃  
有  
所



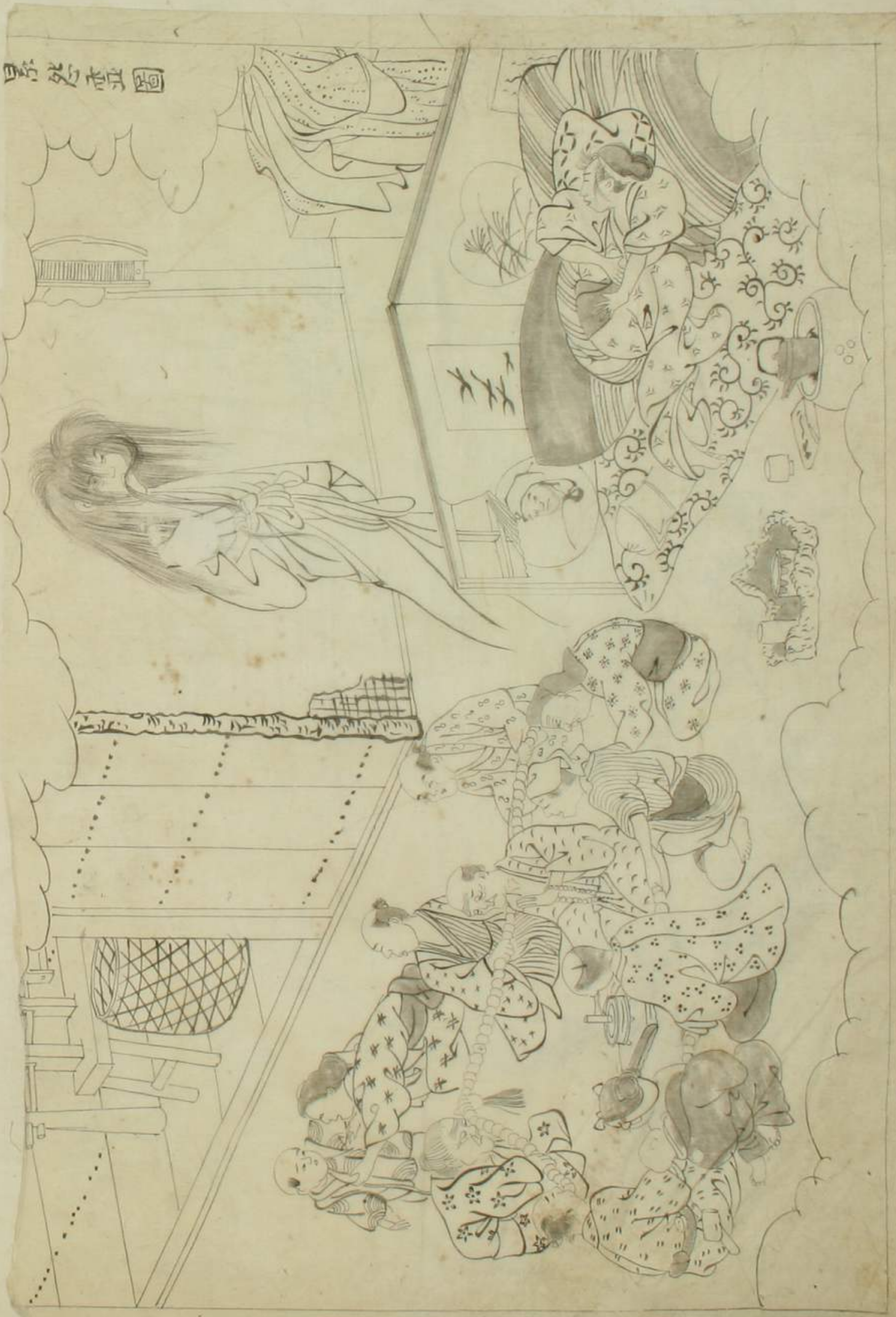
羅架  
琴松

天海堂









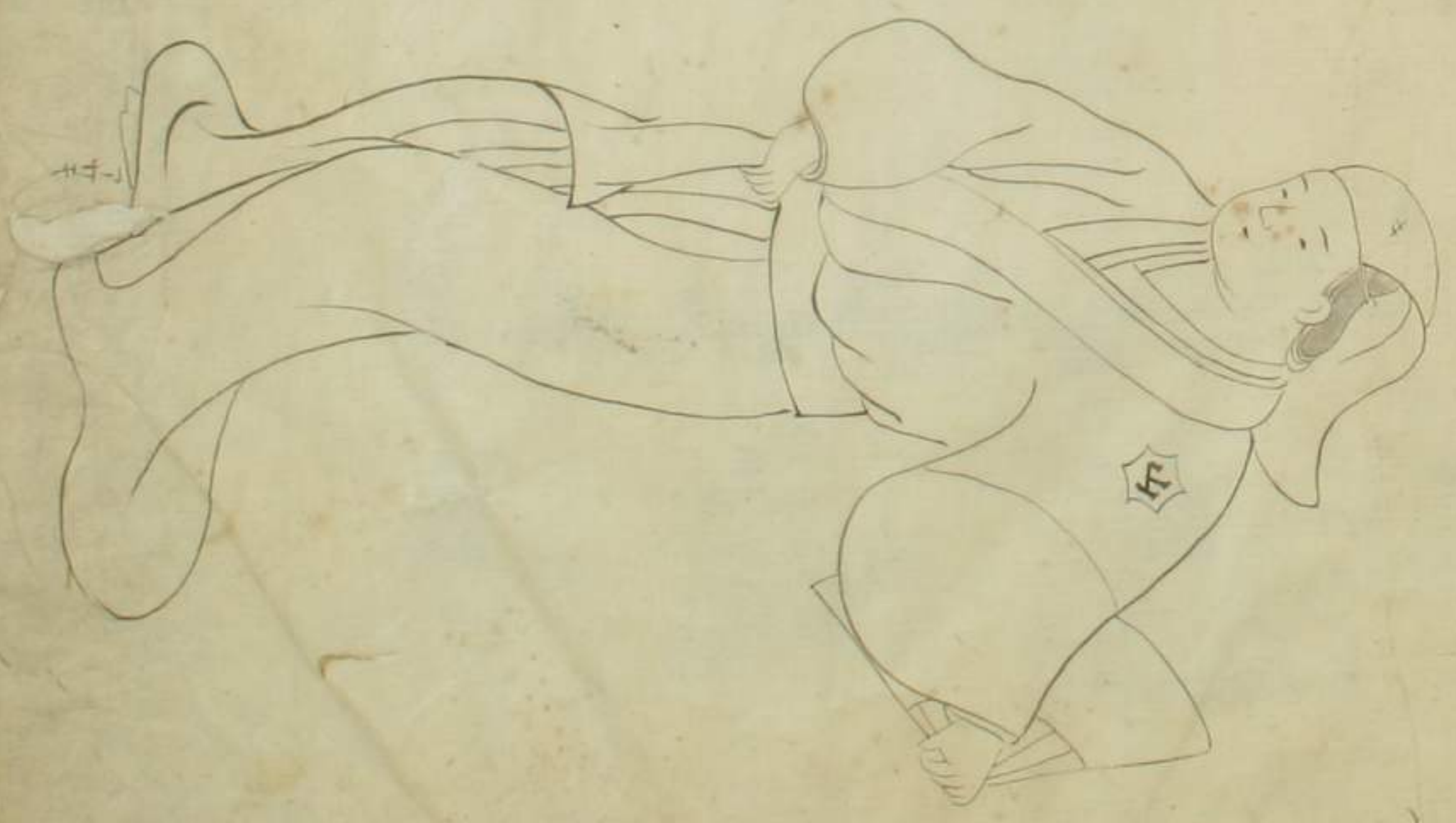
圖正堂



上二狂哥下リ男

物

元禄六年印本  
四巻居百人首  
世高下リ撰出



右近海左衛門舞圖  
古西子撰入





りの文祿慶長はこれに倣ふ  
 時代の考へ別ありあつた  
 勸めはるるるるるるるるるる  
 りるるるるるるるるるるるるるる

此の町の長をわんごのまは  
 りてこれこれの袖は  
 唐の二年の御衣  
 尤も紙の上をうらやま  
 袖はるるるるるるるるるる



新井白石









*[Faint, illegible text and a large, faint sketch of a rectangular structure with internal lines, possibly a diagram or architectural drawing.]*

*[Faint, illegible text and a large, faint sketch of a rectangular structure with internal lines, similar to the one on the left page.]*

11      111      111

*[Small handwritten marks and numbers in the upper right corner.]*













挑燈古の望遠と造りて  
夫小紙をとりて用ひしもの  
今のやく習とつあふと合て延綿



○六方之圖 清水寺本堂外陣と掲ぐ

六方といふは使者の事候と今に南園邊の方之に使者を六方と習ふ  
地あり又丹前六方と習ありもを寛永乃頃何の丹後殿の門前上凡呂  
氏よりありて凡呂女として大藤の施女あり中よと格換凡呂の吉野橋  
采女などさち施女々惣客厚とて使者の風あり人澤名をて丹前が

せーは後の事ありは寛永挑燈  
今の上様候は正用申すまは  
其餘凡呂り天和の比に  
此の如きの挑燈あり也  
今の如きとせしは挑燈  
別よりては挑燈





土中林

今い床とて  
 三つを叙し  
 多お掛花と  
 三つを叙し  
 侍とてぬ



春成とて  
 ねんげんをくくくハの余或ハ十字街十床机を  
 全うとて述し古園のちをなすの存也  
 小一も後もの飯はる板とてあふたれい  
 板とていふはふたれい  
 侍

。古への婦人の姿とてくくくの中細く衣服はもて  
 身中産く上芳の襟は右の方のほりどらふとよ有る  
 とい襦のひらに膝の致ふくまきと和殿とあり  
 婦人の威儀最斯有べきまきよと今の婦人の姿と  
 み及一帯巾の度きふ九寸餘り脚より股にかけて  
 重きふはせら尻の大ききと霞人を有り  
 春の煙小と婦人の歩行りと疑ふとて小見たり  
 え若一衣服ハ下袴の袴と半ハ袴とて一上芳ハ  
 袂く有るまきと一か一此まきより脚布と大まき  
 脛の白まきとて一休ハ人と落まは婦人の  
 形勢不敬とて留人宛せを引控して歩行は  
 等しく仙人の天上より墜るまきとて  
 うらむるありてあるもわ



延室の頃の婦人多く編笠竹の皮笠を被りいさの下ま一ひの布と載り  
 其上に笠と袖とり元祿のまよりま伴とて衣或ハ布と笠は付てま  
 りありまも婦人の面とくくく人料とて一今も哥比丘尼は此風跡とて









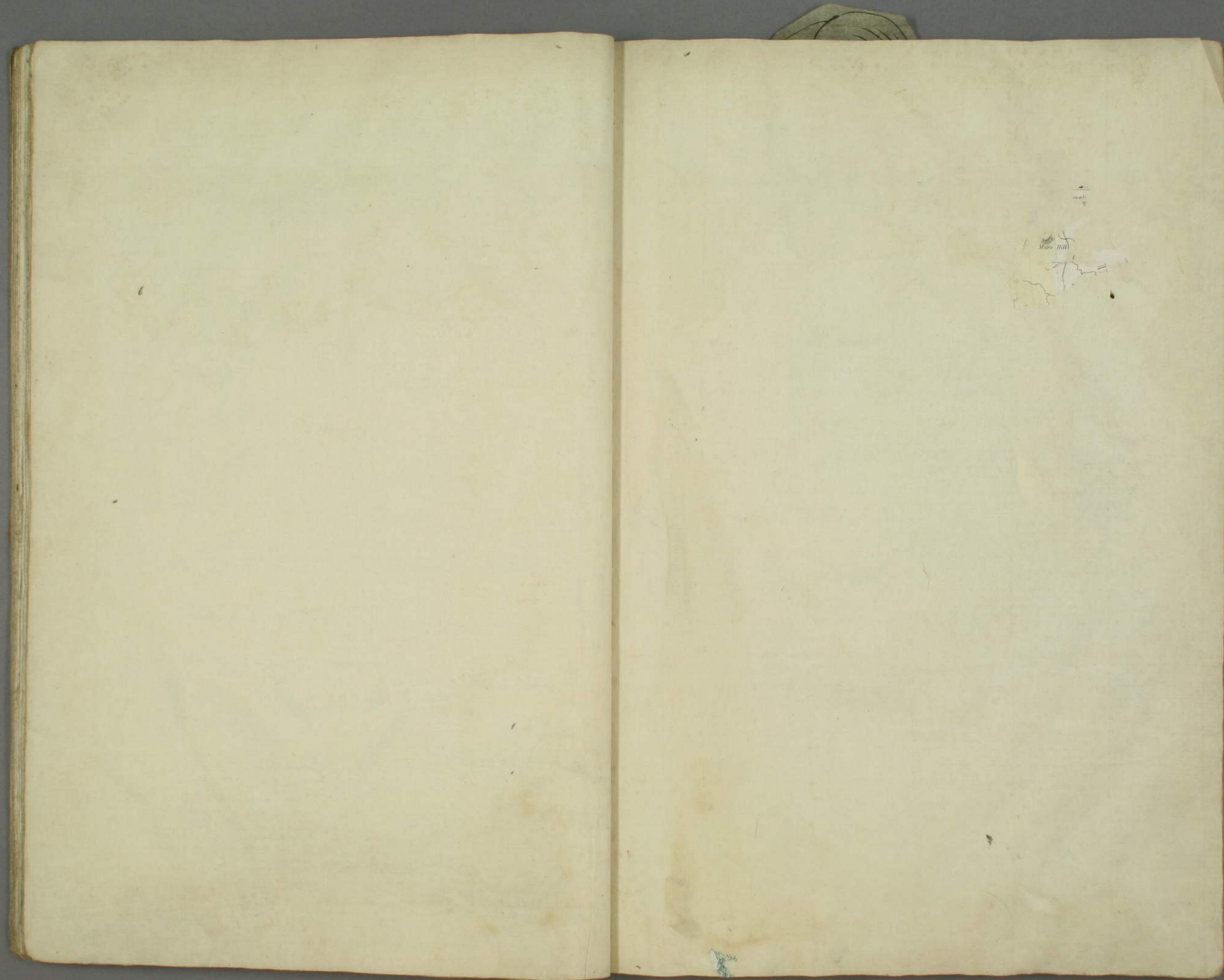


12

Handwritten scribble or signature in the top right corner of the right page.









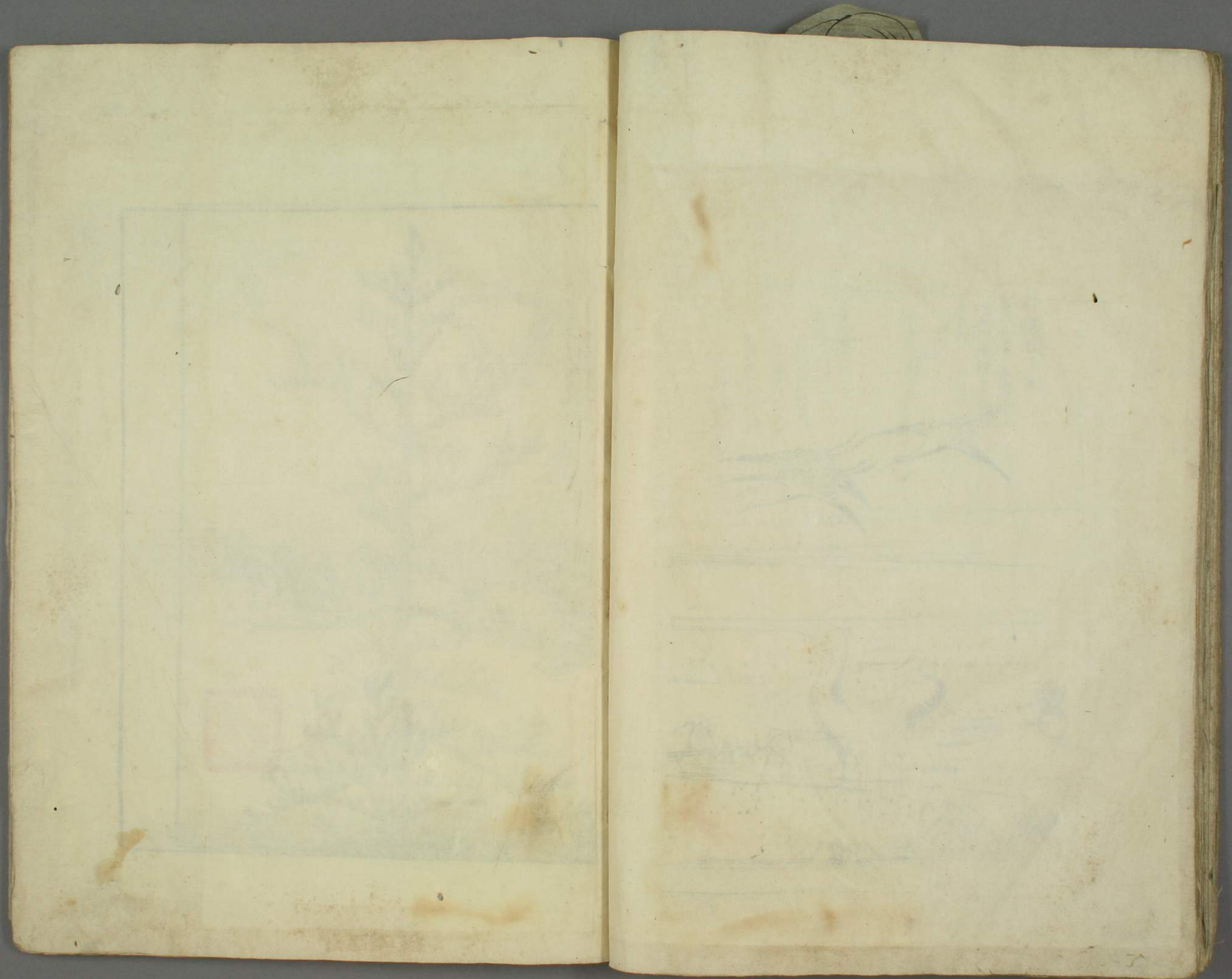


行徳暇の圖  
 今の行徳元龜元年  
 川向行徳領より引移  
 すと云

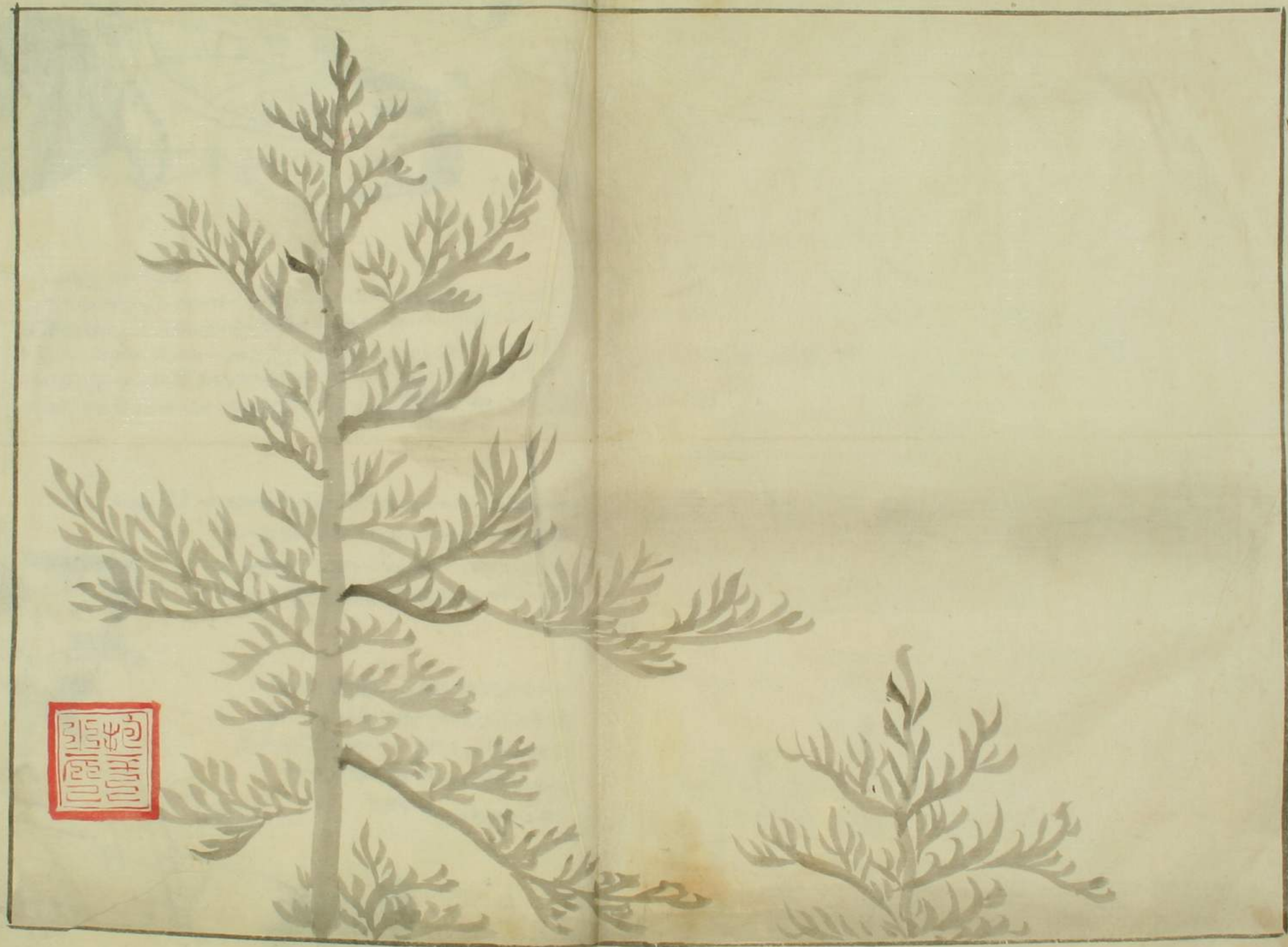
あさち集  
 たらちねの  
 ふうふたふた  
 甚しいる  
 ちねのたつた  
 ちねのたつた







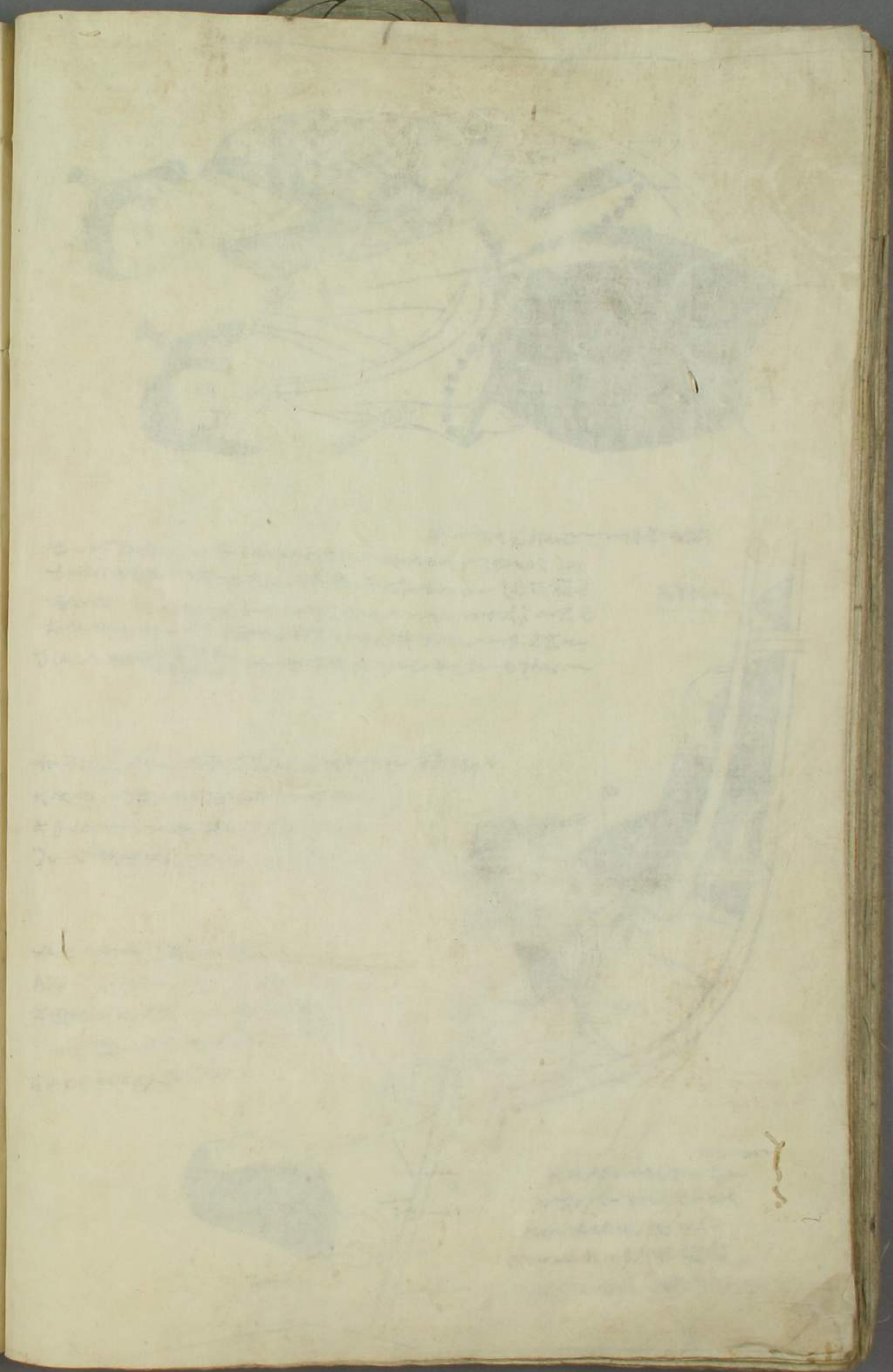
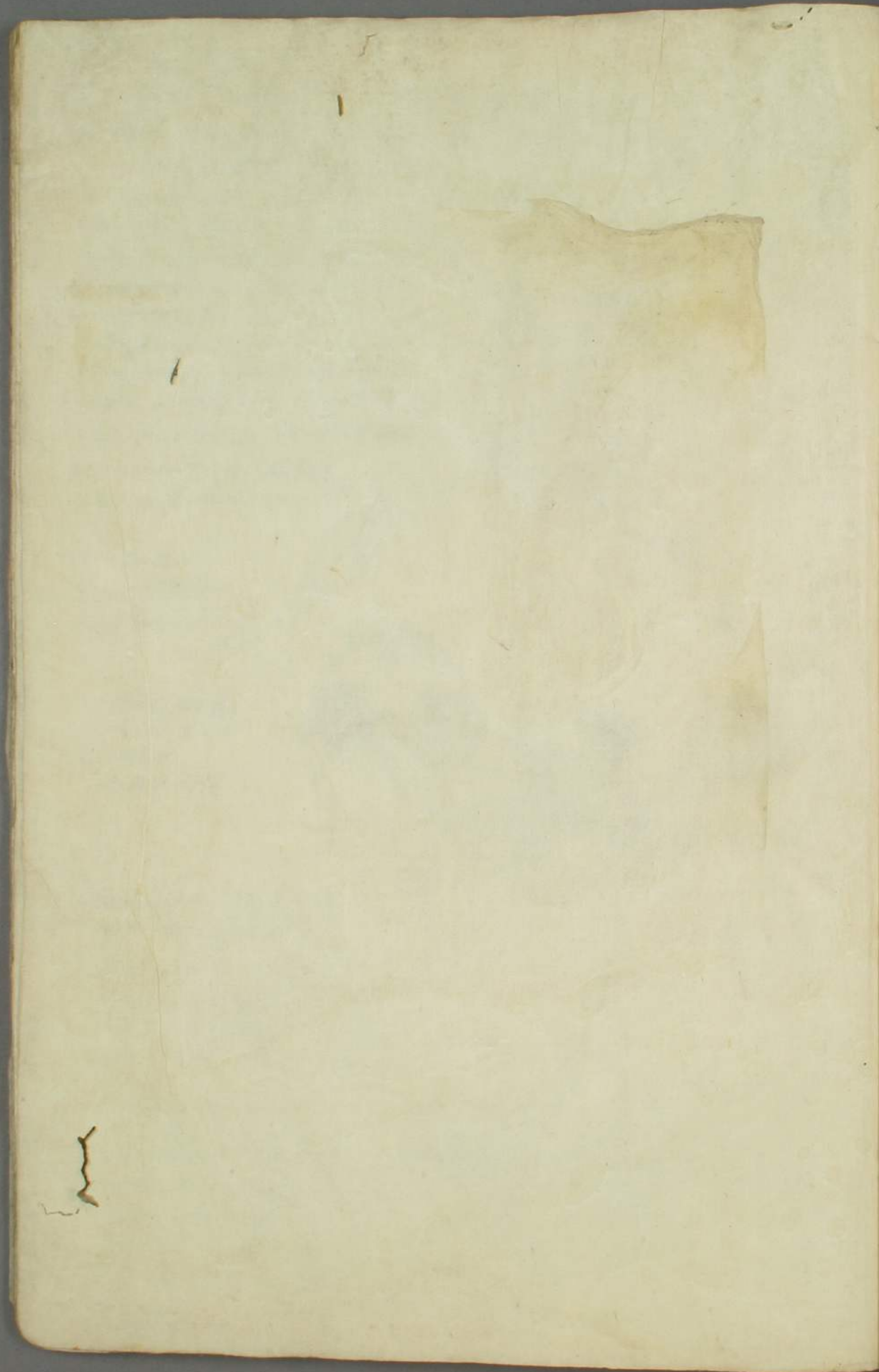












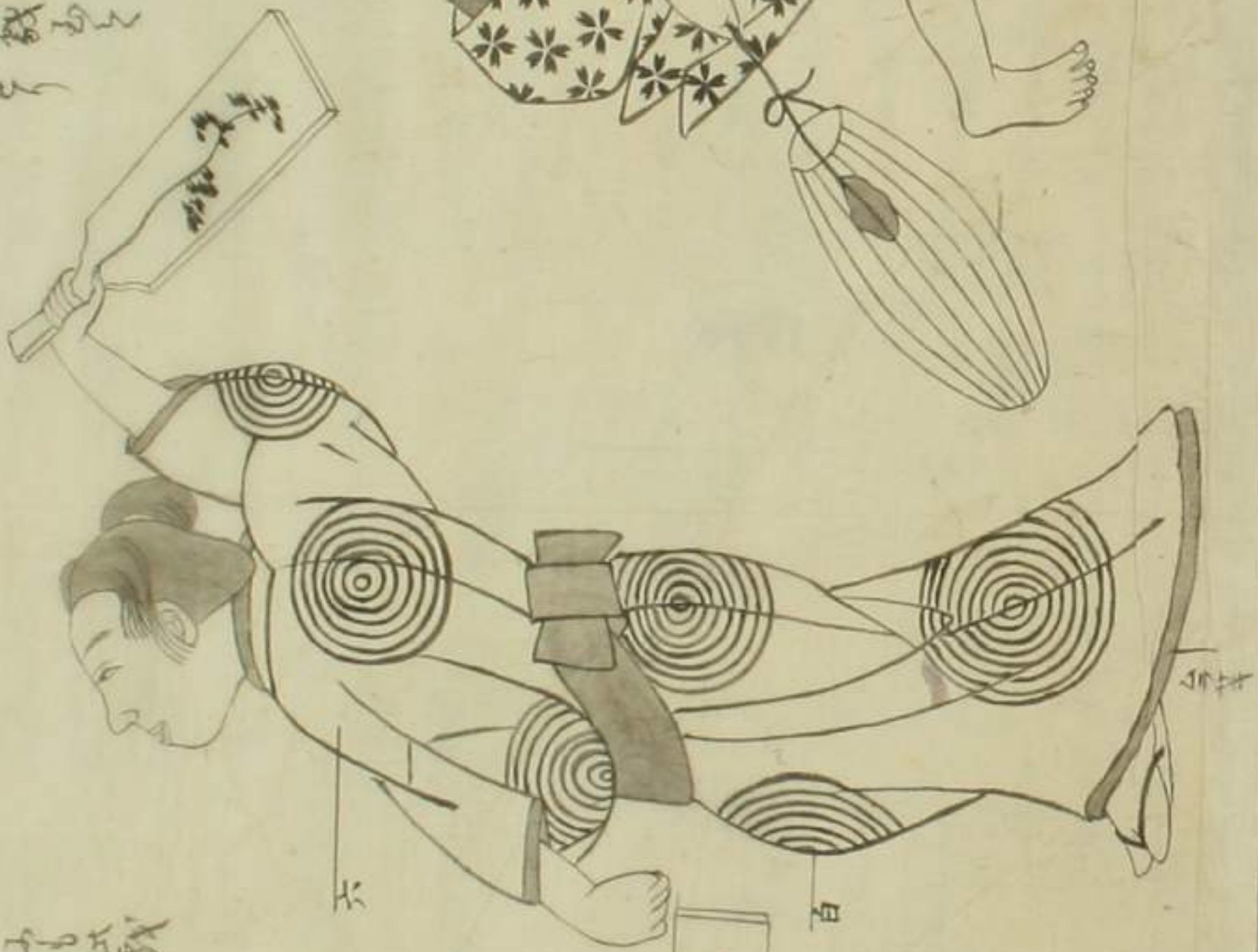


又年清水寺湯堂に掲る正月浴中路上の事  
 初編にせしむる心容ありきとありてききゆれ

○試せ正月元日よりゆく正月申見左右子  
 三聖其字云三言成開く秀面五列五  
 ぶくに村名王と従一と王と擲く  
 彼方を襲ふは玉列五女一り後了  
 玉を成らざるは始は少く亦ん  
 と念付知とゆくとるをさへあむ即と  
 高く擲るは木上王と舟とく其字  
 已く既面にあらず時えとては今  
 試せ正月申見左一町毎二三とあり  
 不ありと年禮のたを遊りやもまは  
 玉修の海に流るは流る一は流る  
 擲るはもあらずは試せと  
 少あらずとるはとあらず



○一況不暇板を  
 神初皇位の精也七  
 素と女児の教とれ  
 とと

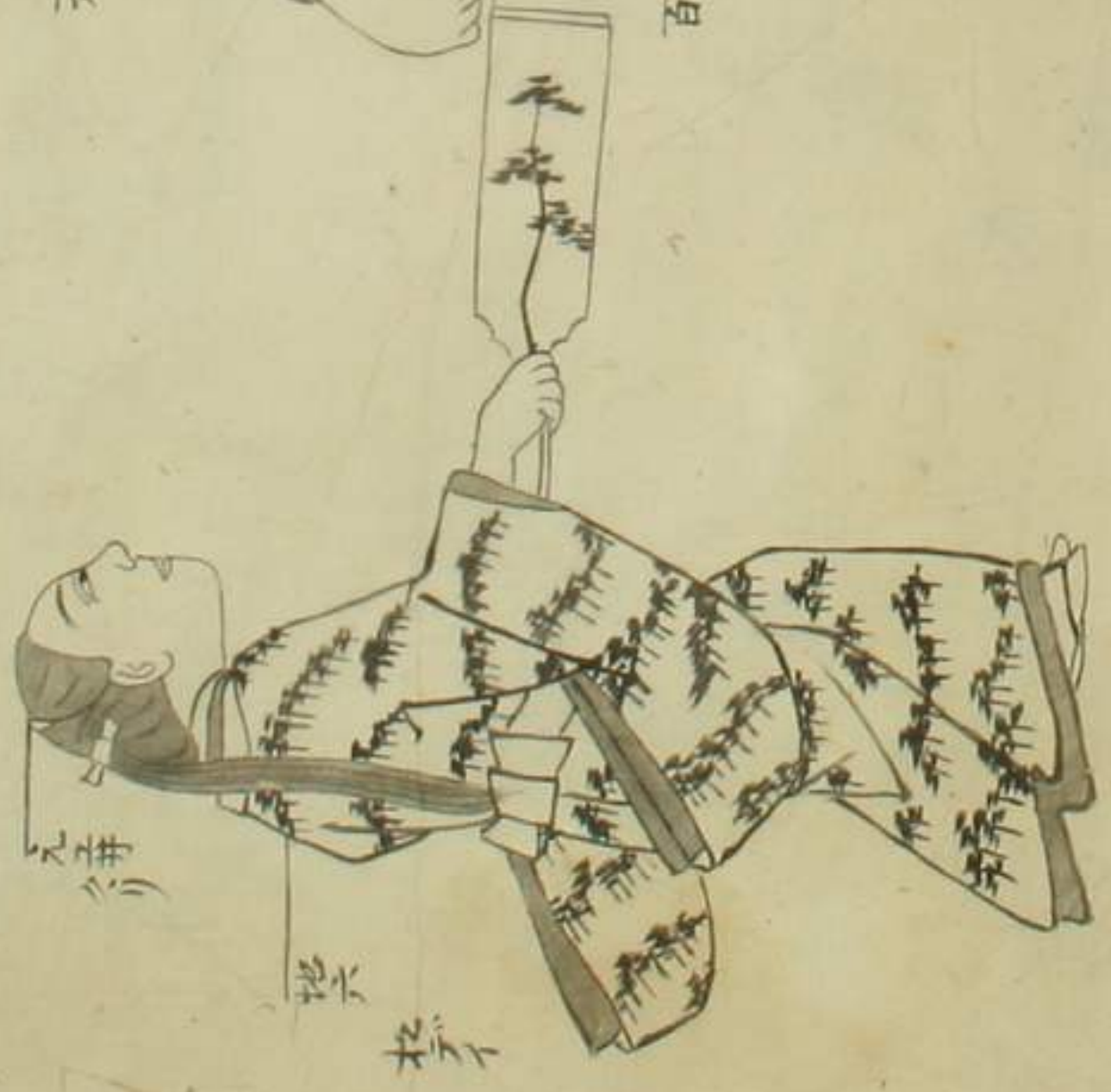


○此の板を名目子板  
 之は利根時代  
 其名及ぶ  
 其初七初九



○胡鬼板の事異國子も試  
 ありて皇を短毛龍性と云ふ  
 ○羽子板の事素に名は家々の内  
 祝儀の伴東と爆竹の伴と西と  
 上は紋と並とく指と押とり寸陰  
 定まれば此國小名名は板と云

○羽子板胡鬼板と云  
 不日言沈明と云ふ六り知  
 作の事のみかへり竹の事  
 木蓮子と付る事或は胡鬼板  
 中くまわれとく跳上とく  
 時給の事と名は年々に試ふ  
 常して作を板と云ふ術と云

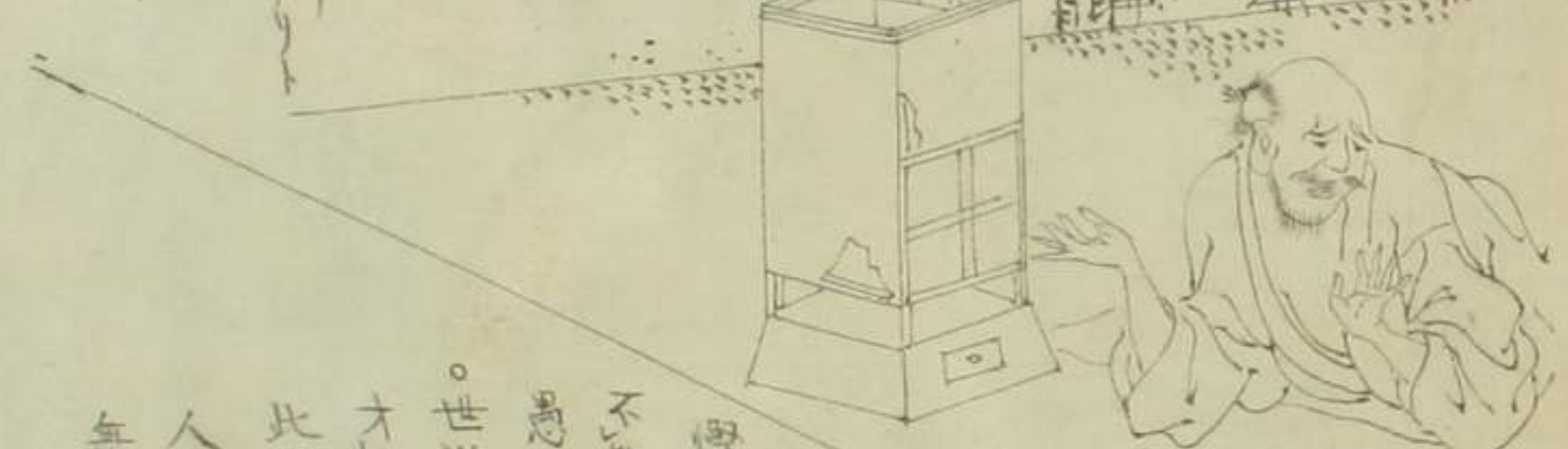




和漢故支文選云  
 或所不更つて貧乏人アリ  
 去歲ニ來歲ニ借錢ノ淵ニ沉  
 ミテ浮ル瀬モナク朝夕ノ相リモ  
 絶々小身ヲカクヌ軍衣カミ  
 ナクシテ無為暮シテハ  
 國ノ所為カ家カ不相應カト  
 思ヒ述ヒテ他國ニ移リテ  
 身ヨ立ントテ破全關  
 五番等ノ物ヲ拾ヒ集メ  
 春ニ取入テ明日ハ夜ヲ  
 アメテ出ント賣リ  
 間ハ少し士真眠メ  
 トラ眩ヲ曲テ休  
 ミタレバ夢ニ  
 十七ハナレ大童  
 影ハ赤熊ノヤウ  
 ニテ肩ニ縋リカド



總ノ帯シメタル男  
 度ニテ草鞋ヲ作ル  
 夢心ニ見ナレヌ  
 者カナ誰カレ  
 問ハ答曰  
 我ハコトタニ  
 親シキ分夏之  
 神ナリ宿香ヲ  
 仕ナフエハニ束ノ  
 間ニ御身ヲハナルベキ  
 吾ナラ子ハ御供仕ニ  
 其用意ツ草鞋ヲ  
 作ルト申ス夢覺ルテ  
 ナラハ過去ノ約束  
 肩ニツイタル分夏トリ  
 今急シキ其マ  
 家ニ住早ヤルシマカ



五種組曰  
 富者ハ多クハ  
 慳シ慳ク為カレバ富者  
 不能又富者ハ多クハ愚ナリ  
 愚ニ非カレバ富者不能  
 世説故支花云愚ナル者ニ必ズ福アリ若枝藝  
 才智有者ハ多クハ公認アリ人ハ為ニ役ハト世俗事  
 此説ヲ為スナリ矣ナル哉東坡加詩ニ云  
 人皆養子望聰明我破聰明誤一生惟願兒愚且魯  
 無災無難到公卿山谷詩ニモ人生不材真為福



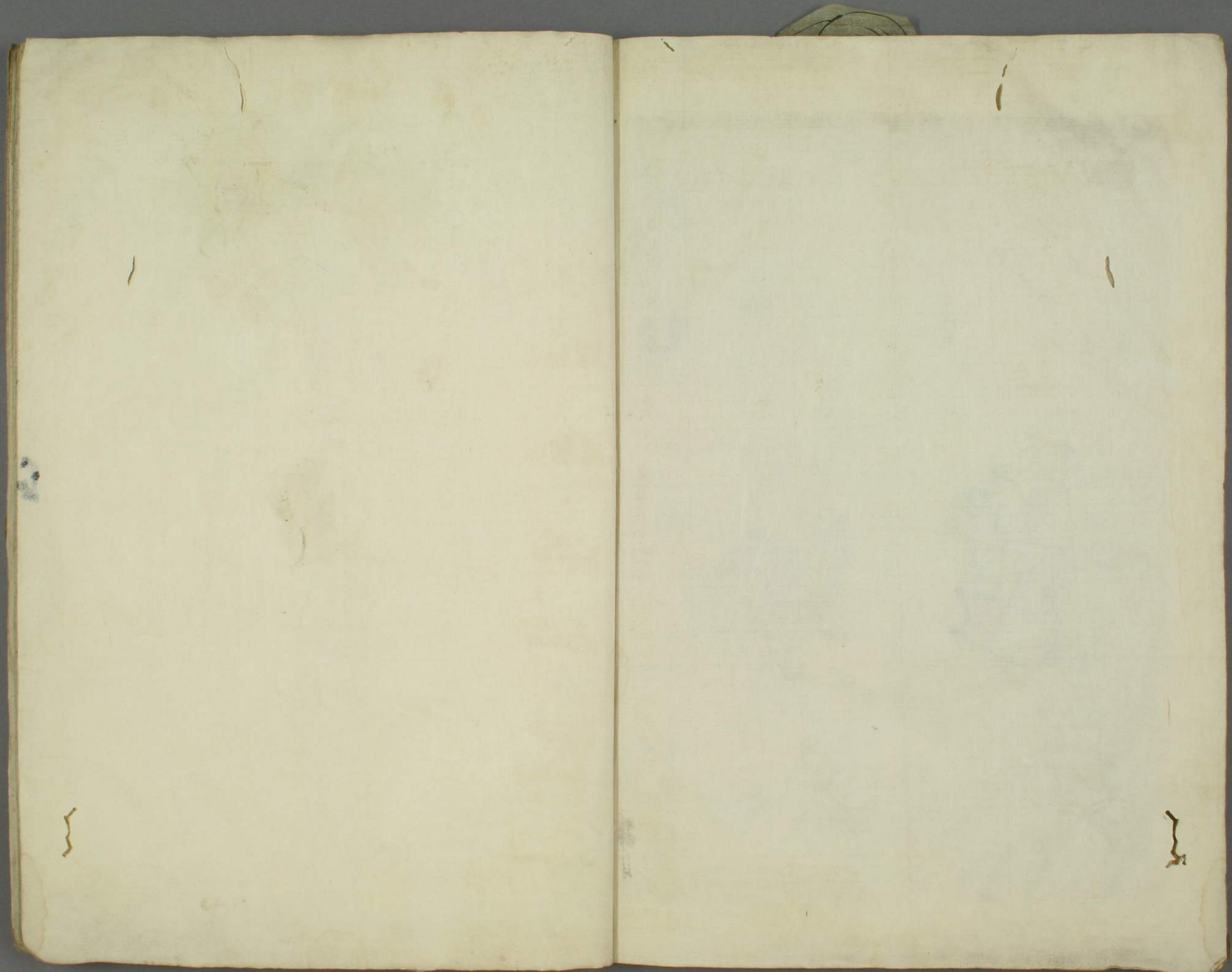




Handwritten Japanese text, possibly a signature or title, located in the upper right quadrant of the illustration.









以下  
3 丁  
白紙



莊子外物篇

婦姑新

林希遷註曰

婦姑の事ハ

賤し者ヲ

上ニあり

貴シ無シ

固シ

有キ

支ク

と云

郭璞

支

了



且令博物云

樽。買士重服

くくハ操柱名

ノ木の根ノ所

中ニカクハ其

上ニカクハ其

自然ニカクハ

ノ山中ハ其

ノ用ハ其

之是ノ用ハ其

ノ用ハ其

合世其

ノ用ハ其

ノ用ハ其

ノ用ハ其

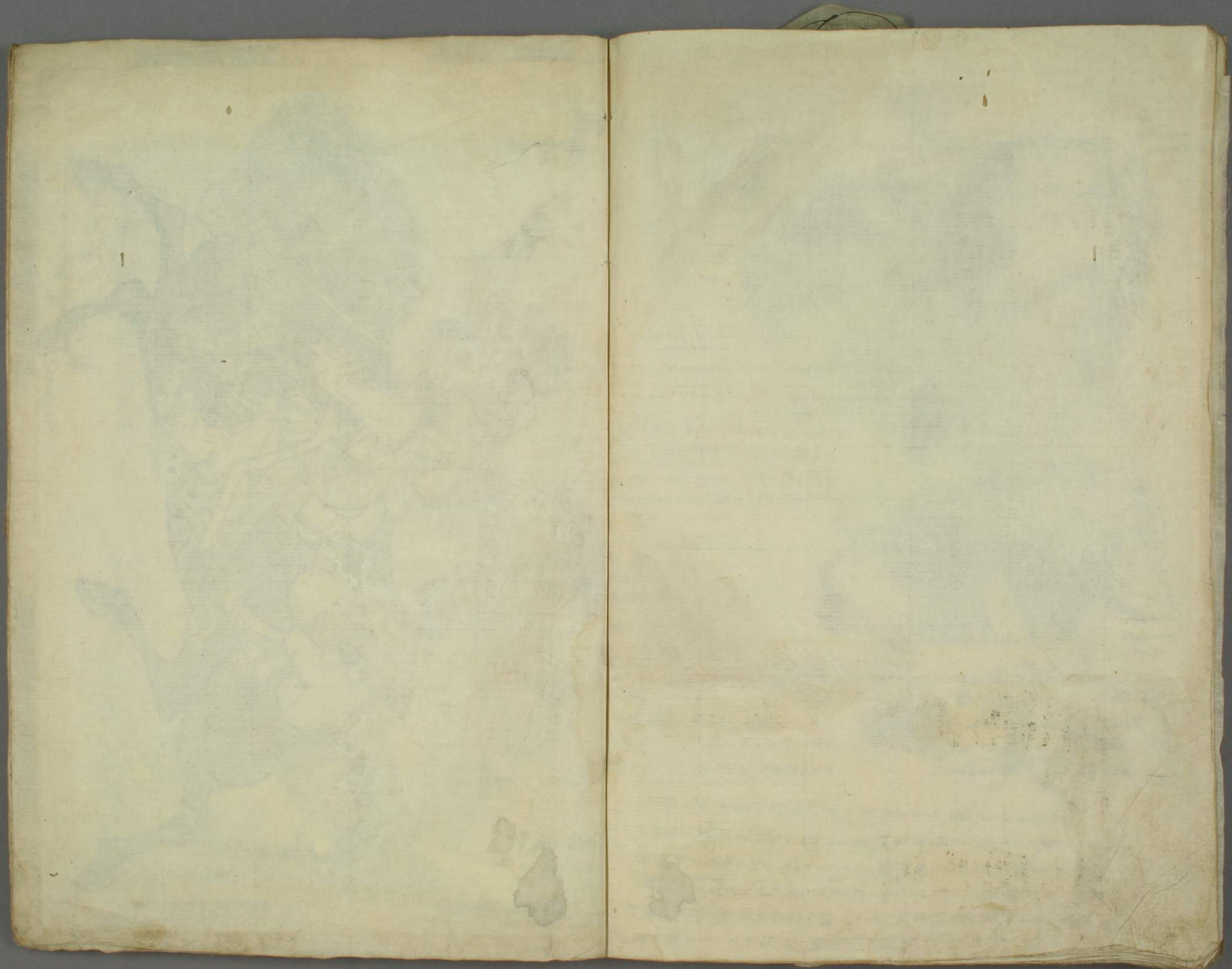
ノ用ハ其













奉掛  
御神前



慶長拾貳年  
六月吉祥日

自享母五代  
長谷川法眼寺御筆

兼心丁御  
御筆

御筆

画文會

十行大共筆

大正





此可栞象日  
墨画和石  
升ノ國アリ

谁知得子心  
兼令人思

林良



名画花卷二  
土佐光茂筆遊女の写  
光信の写

西史會要卷四



光益筆武家の婦人の写  
本朝西史と考へる光益光信の画と  
あり或云土佐家より他人と未知孰是



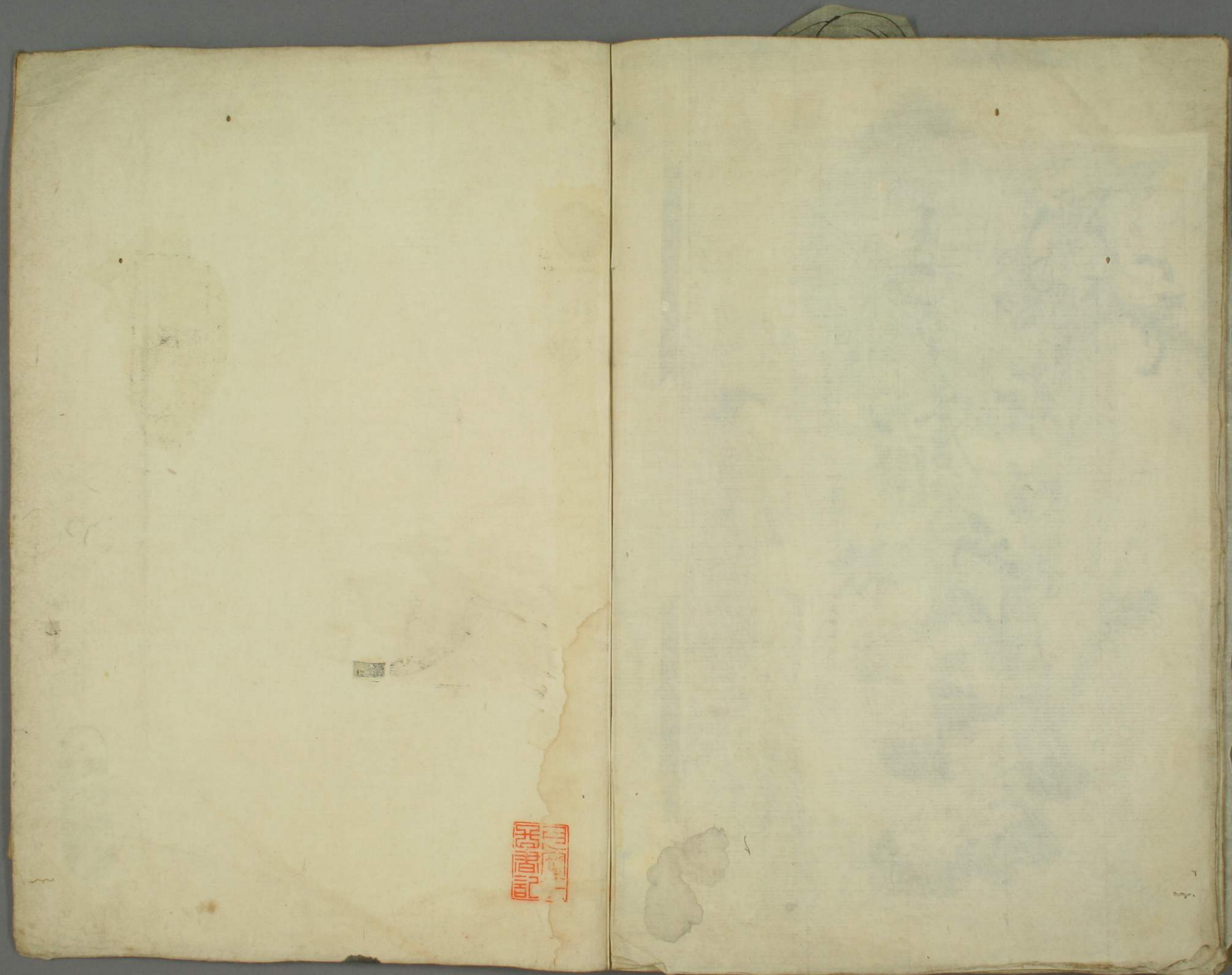
女用濫卷之三

女用濫卷之三  
けいせいの  
たのせいの  
ぬきせいの  
むくもの

女用濫卷之三 貞享四年印本







Red seal impression, likely a collector's or owner's mark, located on the lower left page.



天保前及同俗

月岡家藏